

平成24年度 第1回木更津市史編集委員会 会議録

1. 会議名 平成24年度 第1回木更津市史編集委員会
2. 開催日時 平成24年5月9日(水) 午後1時30分～4時00分
3. 開催場所 木更津市民総合福祉会館 第2会議室(2階)
4. 出席者 市史編集委員会委員 出席6名
金子 馨委員、實形 裕介委員、藤平 量郎委員、野中 徹委員、三浦 茂一委員、
鹿間 和久委員
教育委員会事務局 7名
初谷教育長、石井教育部長、本多教育部次長、高橋文化課長、小高副主幹、
中能副主幹、時山事務員
5. 議題及び公開又は非公開の別
議題1 市史編集事業の進捗について
議題2 「木更津のあゆみ」の内容検討について
議題3 「木更津のあゆみ」刊行日程について
(非公開の理由)
6. 傍聴人 なし。

事務局(小高副主幹) ただ今より、平成24年度第1回木更津市史編集委員会会議を開会いたします。

本日の会議は、橋田委員長・梶山・高崎・須田委員から都合により欠席のご連絡がありましたのでご報告します。会議につきましては、附属機関設置条例第6条第2項の規定により委員の半数以上の出席により成立しております。

また、本日の会議は公開で行い、会議録の作成のため、録音をさせていただきますので併せてご了解願います。

それでは、はじめに初谷教育長よりご挨拶を申し上げます。

初谷教育長 (初谷教育長挨拶)

事務局(小高副主幹) 次に、三浦副委員長よりご挨拶をお願いいたします。

三浦副委員長 (三浦副委員長挨拶)

事務局(小高副主幹) ありがとうございます。議事に入る前に、事務局職員に異動がございましたので、自己紹介をさせていただきます。

(事務局職員自己紹介)

事務局（小高副主幹） では、これから議事に入らせていただきたいと思います。議長は、委員長にお願いする規定となっておりますが、本日、橋田委員長ご欠席のため三浦副委員長に議長をお願い致します。これからの議事進行は、三浦議長にお願い致します。

三浦副委員長 それでは、議長を務めさせていただきます。よろしくお願いたします。
では、議事に入らせていただきます。本日は、「図説 木更津のあゆみ」の進捗状況についての報告ということでございますので、事務局より説明願います。

事務局（小高副主幹） (概況・各班の状況説明)

三浦副委員長 事務局より、ただいま、「木更津のあゆみの進捗状況について」の説明がございました。
はじめに、質問があればお願いたします。

鹿間委員 校正の関係と、目次と本編の整合性について確認ですが、本編の様式は、自然編のように左端に見出しが入りますか。自然だけサンプルとして入れているということよろしいですか。

事務局（小高副主幹） 各編とも左の偶数頁の端に編の見出しを入れる予定になっております。レイアウトの関係上、全ての頁に入れるのは大変なので、見本ということで自然のみ入れさせていただきました。

鹿間委員 わかりました。次に、右上部分に第1章とありますが、こちらも全ての編に入れるということよろしいですか。

事務局（小高副主幹） はい。全て奇数頁の右上に章の名称を入れます。

鹿間委員 56・58頁を見ていただくと、「第4章小櫃川」ではなく、「4 小櫃川」と数字だけ入っていますが、どちらで統一するのですか。

事務局（小高副主幹） このことにつきまして、「第4章」というように統一いたします。こちらの不手際で第と章が抜けております。申し訳ございませんでした。

- 鹿間委員 自然編の偶数頁の左上に見出しがありますが、他の編にも入れますか。
- 事務局（小高副主幹） 左上についてもタイトルを全部入れるようにします。こちらの準備不足で全ての頁に入れることができませんでした。
- 鹿間委員 確認でした。あと、目次と本編を比べて相違点がありますね。まず、1頁の序章で、本編の右上では木更津市の紹介となっていますが、目次は「序 木更津の紹介」となっており、章と市が抜けていますね。
- 事務局（小高副主幹） はい。「序章 木更津市の紹介」に訂正します。
- 鹿間委員 5頁の右端に「大地の姿と成り立ち―地質―」とありますが、「―地質―」は目次に入れないのですか。
- 事務局（小高副主幹） ボリュームの関係上、見開き2頁で抑えたいということで、はずさせていただきました。ただし、章については、例えば原始古代編については、「第二章氷河期を駆け抜けた狩人の足跡」だけですと、どういった時代のものかイメージが浮かばないので、副題を入れております。
- 鹿間委員 わかりました。35頁の本編は「第2章 氷河時代」となっていますが、目次では氷期となっております。どちらが正しいですか。
- 事務局（小高副主幹） 氷河時代の間違いです。目次のほうの訂正になります。
- 鹿間委員 次に、43頁の節が「ムラ（集落）の繁栄」とあり、目次ですと「ムラの繁栄」とありますが、どちらが正しいですか。
- 事務局（小高副主幹） 文章の中にムラのカタカナ表記が多いと委員の方からご指摘がありましたので「ムラ（集落）」という表記に変えさせていただきました。なので、目次を「ムラ（集落）」に直します。
- 鹿間委員 次に、81頁の架け橋の「か」は漢字かひらがなどちらにしますか。
- 事務局（小高副主幹） 基本的には、中学生がわかる漢字を使用するというで編集をさせていただいているところですが、タイトルに漢字を使用してルビをふることは避けたいということで、ひらがなで表記しています。この点につきまして、皆様

のご意見をお聞かせください。

- 鹿間委員 目次はひらがなになるということですね。
- 事務局（小高副主幹） 本編がひらがな表記で良いということであれば、目次もひらがな表記に変えます。
- 三浦副委員長 漢字にしてルビをふったほうが良いですね。
- 實形委員 「懸」は常用漢字ですか。ひらがなにしなくても良いと思います。
- 鹿間委員 159頁「長崎行程記」とありますが、目次では「工程」とあります。
- 事務局（小高副主幹） 「行程」になりますので、目次を訂正します。
- 鹿間委員 235頁の「市議会の動き」ですが、三節となっておりますが、八節ですね。
- 事務局（小高副主幹） 申し訳ございません。こちらの手違いで原稿が違っています。「八 市議会の動き」が正しいです。
- 鹿間委員 それから、241頁に「三 郷土作家の活躍と活発な文化活動」とありますが、目次では「五 活発な文化活動」とあります。
- 事務局（小高副主幹） こちらは、目次が正しいです。また、番号は、三ではなく四が正しいです。
- 鹿間委員 では、249頁のアクアラインは六になりますね。
- 事務局（小高副主幹） はい。目次のタイトルが正しいです。
- 鹿間委員 わかりました。
- 三浦副委員長 ありがとうございました。他にご意見はありますか。
- 藤平委員 5頁の自然ですが、「大地の姿と成り立ち―地質―」とありますが「―地形と地質―」となります。また、5頁の最初に、「大地の姿―地形―」とありまして、6頁最後に「大地の成り立ち―地質―」とあります。地質の内容は7・

8頁にありますから、「大地の成り立ち―地質―」は7頁に入れたほうが良いと思います。

事務局（小高副主幹） はい。調整いたします。

實形委員 配布資料の日程表についてですが、7月13日の入札および校正の流れの欄が点になっています。この日は、校正原稿の提出の締め切り日ですよね。ずっと点のままだと原稿がずっと返ってきません。入札・入稿の日は目安ですか。

事務局（小高副主幹） いいえ。5月17日に入札し、18日に入稿しないと間に合いません。

實形委員 わかりました。

金子委員 34頁に遺跡の図を入れますか。

事務局（小高副主幹） 地図を作成した後に遺跡の図が入ります。原始・古代の校正会議で概説のところに地図を載せて、各節で紹介する遺跡の位置を示してほしいという話がありました。作成するのに時間がかかりますので、現在は地図だけ載せてあります。

初谷教育長 68頁も同じようにするのですか。

事務局（小高副主幹） 68頁については、古代編の遺跡について入れることになっております。ただ、古代の概説は文字数の関係で原始編の地図より小さくなってしまいます。

三浦副委員長 遺跡の数としては、原始のほうが多いと思います。

藤平委員 よろしいですか。26頁の盤洲干潟の植生図は例として挙げたのであって、植生図は別に提出しています。差し替えていただけますか。

事務局（小高副主幹） はい。わかりました。

鹿間委員 各編の最初に概説があり、原始・古代は各一つずつ概説があります。自然にはありませんがこの形でよろしいですか。

- 藤平委員 自然の最初の頁に、自然の概観の原稿があり、最後の頁にトピックスという原稿がありましたが、どちらも入れないことになりました。
- 實形委員 編集していて1つ気になりましたが、「きさらづこう」は、「木更津港」と「木更津湊」の漢字が使われています。統一して表記するのでしょうか。
- 事務局（小高副主幹） 中世の校正会議の中で、「みなと」については「湊」と表記することになりました。
- 實形委員 そうすると、前近代では、「木更津みなと」を表記するときには、「湊」で統一して、「みなとまち」を表記するときは、単語なので「港町」と表記することで統一し、近代以降は「港」で統一するということで良いと思います。
- 三浦副委員長 他にご意見ございますか。
- 石井教育部長 よろしいでしょうか。事務局に伺いたいのですが、一定の法則に基づいてルビをふっているかと思いますが、33・34頁あたりは細かくルビがふっていますが、35・36頁は1つありません。
- 事務局（小高副主幹） 基本的に町名と遺跡名にはルビをふっています。35・36頁は抜け落ちています。
- 本多教育部次長 よろしいでしょうか。268頁に獅子まき実施地区の表がありますが、私は請西に住んでおまして、よく請西の獅子舞について聞きます。この表には請西が入っておりませんが、請西にはないのでしょうか。請西に獅子頭はありますよね。
- 事務局（小高副主幹） 獅子まき実施地区の表につきましては、執筆を担当していただいた田村先生に確認してみます。気付かれた点は、請西地区の獅子まきが入っていないということでしょうか。
- 本多教育部次長 昔から奉納もしており、お祭りのときに獅子を持っていくようです。
- 事務局（小高副主幹） わかりました。確認してみます。
- 三浦副委員長 配布資料の5枚目の「占領期の木更津」の左側に「この時期は、新憲法制定が国内政治の最大の課題であった。」とありますね。

事務局（小高副主幹） この件について、昨日池田先生が来庁され、綴じているものと内容が違っております。この内容でお願いできないかということでしたが、本日の会議に間に合わなかったので別に添付しております。内容については、まだ見ていただいているものではないです。

三浦副委員長 そうですか。これはまだ見ていないものですか。

事務局（小高副主幹） はい。綴じている資料の221・222頁が対応していますが、この添付資料の内容にして欲しいとお話がありました。添付資料のほうですと、文章が多く2カット図版が減っています。こちらとしては、綴じている原稿の内容のほうが良いと思います。原稿の執筆にあたっては概ね図版を主体とした内容でお願いしていますので、できれば図版はそのまま使っていただきたいと思います。

ただ、内容として新しいもののほうがいいのかどうかご検討いただければと思います。

三浦副委員長 他にも内容が変わった原稿はありますか。

事務局（小高副主幹） 栗原先生の「戦後教育始まる」が変わっており、綴じている原稿の239・240頁と対応しています。下の写真が1つに減っていますが、特に問題はありません。

ですが、墨塗りの様子ということであった、子どもが写った写真がなくなると、イメージがしづらくなります。墨塗りの教科書を使っている人が写っている写真のほうがイメージがしやすいと思います。

三浦副委員長 「占領期の木更津」と「戦後教育始まる」については、現在のものと新しいもののどちらが良いか決めましょうか。

事務局（小高副主幹） 書いていただいた栗原先生には、内容について前回の写真を使うか等本日の会議で話し合うことを伝えております。

實形委員 本文を改訂して前の写真を使用するほうが良いと思います。

事務局（小高副主幹） 「占領期の木更津」については、木更津市の市外の鳥瞰図を付けています。他のところで、昭和の初め頃の鳥瞰図と対比ができるのではないかということでもいただいたのですが、これについては、入れるのは難しいので、できれ

ばこの図よりは、今までの写真のほうが良いと思います。ボリュームが問題になりますが。

實形委員

物理的にこれを抜かないと前の写真が入らないので、抜かなければいけませんね。

事務局（小高副主幹）

追加資料の「占領期の木更津」の上に木更津基地を出発前の緑十字機と搭乗員の写真があります。木更津の航空隊が飛び立つ前の様子の写真で非常に良いと思います。ただ、出典先はわかっておりますが、写真がどこにあるかわからないので探さなくてははいけません。用意が間に合わないかもしれません。今は本に載っているものをそのまま使用しています

事務局（中能副主幹）

図書館の本をそのままスキャンしていますので、マット紙等に印刷した場合、非常に状態が悪くなります。221頁につきましては、米軍が撮影したマッカーサー記念館からのものが沖縄県の文書館にありまして、許可を申請するところです。映像が綺麗です。

三浦副委員長

事務局の意見は以前の写真が良いということですね。

實形委員

入手できなければ前の写真に戻すしかないありませんね。単純に見てキャプションはゴシックですよ。説明文は明朝体にするので、入稿前には直さなくてははいけませんね。基本原則にしたがって機械的に直して下さい。

事務局（小高副主幹）

追加資料については、原稿を頂いたままなので、すべて明朝体になっています。

實形委員

図や表の題はすべて下に入ります。表の中に題が入ってしまっているのは、どういたしますか。図の下に入れるよう統一してください。

他に編集していて気になるのは、用字用語が統一されていない点ですね。「なか」、「よぶ」、「ころ」、「ご」を漢字にするのかひらがなにするのか事務局で決めて、その一覧表を作成し、執筆者に校正時に送ると良いですね。事務局が全て修正し、執筆者に確認していただかないといけませんね。「つとめる」の字は、「勤める」と「務める」両方使用されていますので統一が必要です。一覧表を、作成して下さい。初稿の段階で表がないと、統一されないこととなります。「すべて」や「わかる」もたくさんの漢字があります。木更津市はこうするというのを決めてください。

三浦副委員長 それでは、別配布の「占領期の木更津」と「戦後教育始まる」についてはどうするかをいつまでに決めなくてはいいませんか。近現代の班に任せてもらえば、決めた後にお知らせします。

事務局（小高副主幹） 事務局としては、来週の後半に印刷会社に原稿を渡したいので、少なくとも来週の14日の月曜日までにはいただかないと厳しい状況です。

三浦副委員長 執筆者の思いもあると思いますので、相談してみます。14日までには報告します。他にございますか。

實形委員 便宜上、入稿する段階で本からスキャンして入れているものが大量にあるかと思いますが、改めて画像データを入手する際、いつ入手したかどうにかきちんと進行管理してください。許諾が必要なものは住所など連絡先を入れて表を作成してください。例えば、近世の最初ですと、家康の肖像がありますが、本からスキャンしたものが入っています。

事務局（中能副主幹） こちらは大阪の天守閣からいただいたものです。

實形委員 そうですか。あと120頁ですが、柏書房の「文政武艦」ですね。これは、本をスキャンしたのですが、そのまま使用するのはいけません。

事務局（中能副主幹） これはこちらで作りました。原稿では、スキャンしたものを載せてますが、こちらで活字にして作っております。

實形委員 図説ですので、活字では意味がありません。文政武艦を写真で入れなくてはいいけません。武艦というのは、出版物です。現在でいう職員録です。柏書房から出ているのは、元があって、報告しているものです。ここに報告を載せても意味がありません。なので、東京大学の附属図書館で、文政八年武艦の林肥後守忠英と若年寄のところを写真で入手しなくてはいいけません。印刷された本物の史料がありますので、写真で入手してください。

下の朱印状の写しも写真を撮ってきますよね。

事務局（中能副主幹） 元がありませんので、馬来田公民館で出しているものをコピーしたものです。

實形委員 富来田の古文書には真如寺にあるものということで出ていますよね。ないということだと、差し替えが必要になります。古文書は現物の写真を載せ

なくてはなりません。なければスキャニングしたものになります。なければ
ないで執筆者と検討しなくてはなりません。

色指定はどの段階でしますか。

事務局（小高副主幹） 内容の確認についての話が終わりましたら、刊行日程についての話をいた
します。

三浦副委員長 内容についてのご意見が出尽くしたようなので、刊行日程についての議事
へ移ります。

事務局（小高副主幹） 刊行日程表をご確認いただきたいのですが、今月17日に入札、18日入
稿するため準備を進めております。校正については、原稿の校正が3回以上、
図版等色校正を3回以上と考えております。印刷業者にもその旨伝えており
ます。

色校正につきましては、図版等の入手が5月18日の入稿段階で全て揃い
ませんので、8月13日頃までに資料を揃えて、印刷まで3回校正をするこ
とを考えております。

實形委員 色指定は最初に事務局が素案を作成しますか。

事務局（小高副主幹） はい。予定では初校が6月29日となっておりますので、初校が出来次第
各執筆者に原稿をお送りして、7月13日締切りということで、確認してい
ただいた原稿を回収して入稿する予定です。第2校につきましては、7月の
末ということで、8月中旬の締切り、第3校が8月の下旬ということで考え
ております。2校以降につきましては、本来ですと各執筆者にお願いすべ
きところですが、時間の都合上初校のみ執筆者に校正をしていただいて2校
以降は事務局の責任で校正させていただきたく思っています。

三浦副委員長 2校以降は事務局で校正するというのですが、可能であれば、編集委員
も校正の作業に参加したほうが良いと思います。見る人は多いほうが良い
ので、可能である限り委員の方々には参加していただきたいですね。

あと、目次と本編の原稿の照合をさせていただきましたが、同じように年
表と原稿の対照は各班に検討していただくほうが良いですね。

年表は、事務局で急いで作られたようですね。内容が木更津のあゆみの内
容とは少し違います。

實形委員

年表は、基本的に本文からの抽出作業を事務局で行うのですよね。できたものを各時代の編集担当者に送付して確認していただく作業をどこかでやらなくてはなりませんね。同じ職場に池田さんが編集担当でおりますが、単純な間違いがあるそうです。参考データとして「わたしたちの木更津」をお渡ししましたが、年表に間違いがあったそうです。ベースになっているものにも間違いがあるので、今直してしまえば、今後いろいろ使えますね。

三浦副委員長

年表の大正期は大正元年と12年と15年しかなく、明治は23年までしかありません。明治は45年までありますから。旧木更津市史が基になっていると思います。新しい事実もありますし、表現も古いように感じます。

事務局（小高副主幹）

目次については、校正会議でもお話をさせていただきましたが、最終原稿を基に年表を見直します。まだ揃っていませんので、これまでのものと特に変わっていません。再来週の本稿を基に作り直します。また、目次は12頁で予定しています。総頁数が300頁ですので、年表でボリュームが増えてしまうと、厳しい状況です。

實形委員

まずは作ってみて、削る作業をしなければいけません。基本的に12頁に収めるということですね。

三浦副委員長

他にありますか。表紙について何かご意見あればどうぞ。

實形委員

裏表紙はシンプルなもの、表紙は、いろいろ載っているものが良いですね。

石井教育部長

よろしいでしょうか。市史発行同日に110頁ほどの木更津の市制施行70周年記念誌と、3、40頁程度の市の市制要覧というものが出ます。内容も記念誌には歴史部分がでてきます。表紙できっちり区別をつけたほうがよろしいのではないかと思います。私はその委員をやっております。表紙のなかで一番わかりやすいのは太刀の写真だと思います。記念誌等については、表紙が若干変更になる可能性があります。

實形委員

そのあたりは、横の連絡を取っていただくとしまして、太刀だけの写真は、一般受けしないです。木更津は金鈴塚あつての木更津ではありません。全部の歴史をここで載せていますので、いろいろな興味深い写真が載っている表

紙が良いですね。

金子委員 私もそのように思います。図説ですので、1つだけの図を載せるのは、あゆみとは違う気がします。歴史としては、不適切な表紙だと思います。

石井教育部長 記念誌も概ね昭和17年の市制施行以降を扱っておりまして、110頁ほどですが、原始古代も出てきます。なので、同じ写真が載る可能性があります。そのあたりはすり合わせをしなければいけません。

實形委員 横の連絡をきちんと取って調整していただくしかないと思います。基本的には、多くの方に興味関心を持って、購入していただかなくてはなりません。そのためには、カラフルでいろいろな情報を載せるほうが良いですね。

事務局（小高副主幹） 参考にカラーの表紙を回しています。最初に何も無いのは、青やピンクなど表紙自体に色をつけて、字を書いていただくようなシンプルな形で考えています。それから、何か1点写真を載せるやり方、あとは、各時代の写真をいろいろ載せるやり方、次に、色合いが強いのので印象がつくかと思い、浮世絵を何点かしばって載せています。4種類作りしました。背表紙については、シンプルなものと1点ものを作りしました。

實形委員 裏は見られることはないのです、シンプルが良いと思います。表は複数写真を載せるとなるとかぶってしまう可能性がありますので、何を載せるか調整が必要です。

石井教育部長 記念誌は業者からの提案で未来というロゴがついた表紙が多いです。

事務局（小高副主幹） 表紙は手に取ってもらいやすいものということで、色付きの文字ではなく、少なからず柄が入ったものが良いということでもよろしいでしょうか。入札の段階でこのような表紙するという事で業者に説明できます。

三浦副委員長 山形企画の編集者の上杉さんに参考に意見を聞いてみるのも良いですね。専門家ですから。

實形委員 入札は大丈夫ですよ。

事務局（小高副主幹） はい。あと、後ろに執筆者と編集者の名前が書いてありますが、執筆者につきましては、肩書きの後ろにどの部分を執筆したかを書かせていただきます

す。

藤平委員 表紙について、希望としては、富士山と干潟の写真を載せていただきたいです。

事務局（小高副主幹） 干潟の写真は上のほうにあります。

實形委員 冬の富士山がよく映っている写真があれば良いですね。

三浦副委員長 いろいろな写真が載っている表紙の写真はもう少し減らしても良いと思います。

實形委員 どの写真を載せるか案をたくさん出していきたいですね。厳選して各時代満遍なく載せると良いと思います。

事務局（中能副主幹） これらの表紙はイメージで作りましたので、モザイクのように写真を載せる際の写真の大きさですとか、余白の部分が何色になるのか等まだ考えておりません。ですから、このまま表紙になるわけではないということをご承知おきください。モザイク、パッチワークのようなものと、無地のものと、というように捉えていただきたいと思います。

實形委員 はい。もう決まっております。表紙は1点ものではなく、複数の写真を厳選して表紙に配置するものですね。そして、事務局は記念誌等と写真がかぶらないように調整をし、各時代から情報を寄せてもらう作業をするということで、今はそれ以上は決めることはできません。載せる写真が決まると、次は配置の問題が出てきますよね。センスのある上杉さんにレイアウトを作っていたら良いですね。

三浦副委員長 タイトルの字の大きさや形も変わるかもしれませんね。

實形委員 各時代からおすすめの写真を事務局が聞かなくてははいけません。本編に入れられなくて勿体無いと思う写真が各時代にあると思います。また、ルビの一覧表を作成しなければいけませんね。地名や固有名詞や歴史用語にはルビをふらなくてははいけませんね。漏れのないよう多くの人数では機械的に作業をしないといけません。一人がどんなに見ていても、見落としが出てしまいますので。

- 金子委員 確認ですが、ルビは見開き2頁で、2度同じ漢字が出てきた場合、全部ルビはふりますか、それとも最初だけですか。
- 事務局（小高副主幹） 最初だけふります。
- 藤平委員 ルビは各班で入れますか。
- 實形委員 事務局がメインでやりますが、どのような原則でやっているか執筆者にお知らせしないと執筆者はルビを付けてしまいます。
- 三浦副委員長 印刷製本業務委託仕様書がありますが、説明はありますか。
- 事務局（小高副主幹） 用紙の種類については、カラーで光沢のあるマットコートでお願いする予定です。版については、表紙用のものでK版等ありまして、写真等の図版については最低175線以上ないとあがりとしては、見栄えが良くないと言われています。
- 三浦副委員長 3000部で一般頒布もしますか。
- 事務局（小高副主幹） はい。
- 三浦副委員長 値段を付けて売りますか。
- 事務局（中能副主幹） はい。2000円で売る予定です。
- 三浦副委員長 2000円ですと売れますかね。
ところで、この委員会はあと1回ぐらいになりますか。
- 事務局（小高副主幹） 入稿したあと、校正をはさんで、途中で1回開催する予定でおります。
- 三浦副委員長 『木更津のあゆみ』が出来上がれば、編集委員会は解散するのですか。
- 事務局（小高副主幹） 別冊の『図説 木更津のあゆみ』の刊行を目的に編集委員会を立ち上げていますので刊行が終われば解散ということになりますね。
- 三浦副委員長 以前は木更津市史を刊行した後も活動していましたよね。

事務局（中能副主幹） はい。何年か活動していました。

三浦副委員長 活動成果の報告書を図書館で見ますよね。あのような形で80周年記念に向け、委員会が解散するまでに次の編さん、あるいは委員会に、何か要望を出す等したほうが良いと思います。

生煮えとといいますか、あるいは、既に何百回も見たものをもう1回見て、何とか新しい味を出そうとして苦勞するといいますか、何か自分で新しいものを掘り起こして新鮮な気持ちで市民に訴えるといいますか、創造的な喜びがあまり出てきませんので、委員会をもっと続けていただきたいですね。

藤平委員 そうですね。最初は本編を作ることが目標でした。

石井教育部長 議長、よろしいでしょうか。委員の任期は単年度になってまして、23年度4月1日から25年3月31日の2年間になっています。ですから、11月3日刊行後も来年の3月31日までは活動していただくこととなります。

事務局（中能副主幹） 当然、刊行してすぐ解散ではなくその後の整理もご置きます。

石井教育部長 ただ、お話にありました今後の本編の作成については、予算等具体的なことが確定されていません。本市には中期、長期の計画がありますので、総合計画等にのせていかななくてはいけない中での出発ということになります。

現在の三ヵ年計画が来年度までであり、26年度より新しい計画が始まります。本編の作成をどのような形でどのような期間を設けて、5年でやるのか10年でやるのかということも含めて検討した中で、先生方をお願いをしたいと思います。

他市では室や班等様々な部局で市史編さんをしているようです。

實形委員 本格的木更津市史に向けての提言をしても良いということですね。

石井教育部長 はい。『図説 木更津のあゆみ』をお作りいただいた委員会の総意として、こういったものがありますということで出していきたいと思います。

實形委員 刊行記念の講演会は考えていないのですか。そういう機会を設けないと、なんとなく市史が出たということになります。執筆者が大勢いますので、『木更津のあゆみ』で取り上げた話をわかりやすく話してもらえると良いと思います。年度のなかで1回でもできると良いと思います。

- 石井教育部長 今後検討させていただきます。
- 三浦副委員長 80周年まで10年ありますから、5年は調査をして、後の5年で史料集と通史を書くということではいかがでしょうか。
- 石井教育部長 水越市長が木更津市として施行70周年は最後で、4市合併してということをおっしゃっています。
- 三浦副委員長 木更津市としての80周年はなくなるかもしれないのですね。新しい市の中心として歴史の足跡を記録できるわけです。その準備にもなりますね。
- 事務局（中能副主幹） よろしいでしょうか。年表の確認ですが、原稿で取り上げているものについて漏れなく年表に入れて、12頁に収めるということではよろしいですか。その中で、例えば、木更津市の小中学校が開設されたという場合、全部の学校を載せるべきでしょうか。また、公民館や市立幼稚園もいかがでしょうか。
- 實形委員 まず、第一の作業は入稿します。そのときに本文原稿から抜き出す作業をしてください。その上で、付け足すかどうか考えることになります。満遍なく抜き出したものを作成し、原則を決めて削る作業をしていくわけです。なので、抜き出すときに厳選して抜き出してはいけません。漏れなく全て抜き出してください。抜いた後で、どのような原則を決めて削ったかを説明できれば良いです。
- 事務局（中能副主幹） わかりました。
- 三浦副委員長 他にございますか。
各委員さんの意見も本日のところは出尽くした感がございますので、本日の協議はこのあたりで終了いたしたいと思います。進行を事務局にお返しいたします。
- 事務局（小高副主幹） 以上で平成24年度第1回市史編集委員会を終了いたします。
お疲れさまでございました。

平成24年5月9日

議事録署名人 木更津市史編集委員会

副委員長 三浦 茂一